

## 協議事項 2

学校体育館空調の増強事業について

学校体育館空調の増強事業について、協議事項として以下のとおり提案する。

令和 8 年 4 月 23 日 提出

神戸市教育委員会事務局  
事務局長 竹森 永敏

## 学校体育館空調の増強事業について

### 1. 目的

体育館の空調は、令和元年から令和5年にかけて各小中学校に、当時としては先駆けて、部分空調として4台ずつ空調機の設置を行い、一定の効果をj得ている。

しかしながら、異常高温が常態化する現状における教育環境及び避難所環境の改善を図るため、体育館全体に効果が及ぶ空調の増強整備を、試行的に3校実施するとともに、残りの学校についても現地調査を行う。

### 2. 対象施設と整備目標

対象施設：小学校、中学校、高等学校、義務教育学校の体育館（約250校）

整備目標：暑さ指数（WBGT）25未満

空調能力：0.15~0.2kW/m<sup>2</sup>（普通教室と同等となる空調効果の増強）

熱源：電気又は都市ガス（中圧ガス、低圧ガス）

### 《暑さ指数を用いた指針》

#### ○運動に関する指針

気温 (参考)	暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31以上	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。
31℃以上3 5℃未満	28以上 31未満	嚴重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温 が上昇しやすい運動は避ける。 10~20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。 暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。
28℃以上 31℃未満	25以上 28未満	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水 分・塩分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
24℃以上 28℃未満	21以上 25未満	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に 水分・塩分を補給する。
24℃未満	21未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は 必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので 注意。

※暑さに弱い人：体力の低い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など

(公財) 日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」(2019)より